

北見工業大学学報

第304号 (2021年3月号)

目 次

学位記授与式	令和2年度学位記授与式を挙行……………	2
告 辞	令和2年度学位記授与式告辞……………	4
入 試	令和3年度大学院入学試験(第2回)を実施……………	6
	令和3年度一般選抜を実施……………	7
研 究 助 成	令和2年度外部資金の受入状況……………	8
人 事	人事異動……………	9
受 賞	本学大学院生が第30回化学工学・粉体工学研究発表会において 学術奨励賞を受賞……………	12
	応用化学系の大野智也教授が令和2年度北海道科学技術奨励賞を受賞……………	13
諸 報	ブックリユースを開催……………	14
	メンタルヘルス研修を実施……………	15
	端野しらかば大学集合学習に協力……………	16
	アルゴグラフィックス北見カーリングホールで 本学学生がギターソロコンサートを開催……………	17
	就活支援セミナー「病院の医療情報システム エンジニアの仕事紹介」を開催……………	18
	令和2年度就職イベントを開催……………	19
	個人情報保護研修を実施……………	20
	「地域を彩る食物語」に出展……………	21
	事務職員のための講演会を実施……………	22
	北見医工連賞授賞式……………	23
	令和2年度学生表彰……………	24
日 誌	2月・3月……………	25

= 学位記授与式 =

令和2年度学位記授与式を挙行

(総務課)

3月19日(金)、令和2年度学位記授与式を本学講堂で挙行しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策として式典を3回に分けて行い、学部381人の卒業生、大学院工学研究科博士前期課程112人、同博士後期課程6人の修了生及び論文博士1人に対し、鈴木聡一郎学長から学

位記が授与されました。

式典毎に、代表の卒業生・修了生が答辞を読み上げ、学位記授与式は無事終了しました。

卒業生、修了生の人数は下表のとおりです。

学 部

学 科 名	卒業生数 (人)
地球環境工学科	149
地域未来デザイン工学科	188
機械工学科	7
社会環境工学科	8
電気電子工学科	14
情報システム工学科	8
バイオ環境化学科	6
マテリアル工学科	1
合 計	381

大学院博士前期課程

専 攻 名	修了者数 (人)
機械工学専攻	24
社会環境工学専攻	23
電気電子工学専攻	18
情報システム工学専攻	13
バイオ環境化学専攻	12
マテリアル工学専攻	22
合 計	112

大学院博士後期課程

専 攻 名	修了者数 (人)
生産基盤工学専攻	4
医療工学専攻	2
合 計	6

論文博士

1人



学位記授与

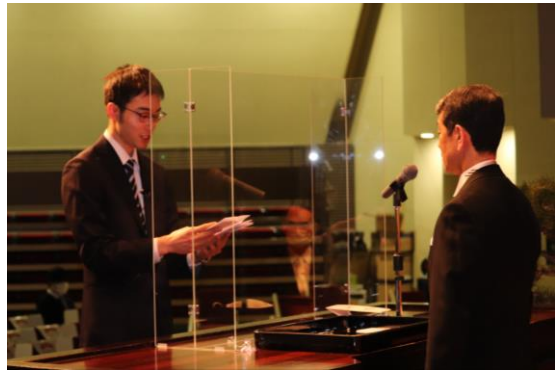


学長告辞

【各回の答辞】



地球環境工学科
(環境防災工学コース)
鎌田 航輔さん



地域未来デザイン工学科
(情報デザイン・コミュニケーション工学コース)
杉本 有矢さん



大学院工学研究科博士前期課程
社会環境工学専攻
高橋 優太さん

= 告辞 =

令和 2 年度学位記授与式告辞

学部卒業生、並びに大学院修了生の皆さん、この度の学位取得は誠におめでとうございます。これまでの皆さんの努力の成果として、学位記を授与されましたこと、北見工業大学の教職員を代表し、心からお祝いをいたします。

この度、晴れて学士の学位を取得した方は 381 人、修士の学位は 112 人、博士の学位は 7 人の方が取得しました。この中には 10 人の留学生が含まれています。この学位記授与に至るまでには、多くの困難と努力があったことと思います。そのような時、皆さんに支援の手を差し伸べてくれた研究室の仲間や指導教員、陰で支えてくれたご家族や友人など、周囲の様々な協力があったからこそ成し得たことだということを決して忘れないでください。是非、これまでの経験を今後の人生に活かして頂けるよう、願っています。

今年度の学位記授与式は、卒業生、修了生の皆さんだけの出席に限定し、分割方式を採ることで対面での開催を実現することができました。新型コロナウイルスの感染拡大が未だ終息の兆しを見せない中、学位記授与式を通常通り挙げて、ご家族をはじめ、皆さんがこれまでにお世話になった方々に、直接皆さんの晴れ姿をお見せできないことは、本学としても大変残念に思います。

さて、一昨年 12 月に中国湖北省武漢市で最初の感染が報告されて以来、新型コロナウイルス感染は瞬く間に全世界に広がりました。この感染拡大は世界経済のグローバル化と無関係ではありません。グローバル化の波がヒト・モノ・カネ・情報の流動性を高め、国際社会のボーダーレス化を加速させた結果、全世界に急速に感染が拡大しました。さらに、このパンデミックが新

たな変異ウイルスを誕生させ、感染拡大の連鎖を断ち切ることができない状況になっています。

世界各国では、国民の不安や経済的困窮を背景に暴動やデモが多発し、国際社会は分断されました。WHO がパンデミックを宣言した当初より、世界的歴史学者で哲学者のユヴァル・ノア・ハラリ氏は、感染症の大流行への本当の対抗手段は、分離ではなく協力であり、人々は科学の専門家を信頼し、国民は公的機関を信頼し、各国は互いを信頼する必要がある、と述べています。世界的な感染拡大が収まらない中、我々はこのような社会を目指すべきではないでしょうか。

一方、日本国内に目を移すと、大学ではオンライン授業が普通に行われ、学会や会議もウェブ会議方式が主流となりました。社会人の勤務形態としては、在宅勤務やリモートワークが推奨され、意図せずして Society5.0 が目指す、IoT の社会実装が加速されたように思えます。さらに、ポストコロナの時代を迎えるにあたり、東京一極集中を避けた地方分散型社会の実現は、より現実味を増してきていると感じます。これを大きな転機と捉え、政府はデジタルトランスフォーメーション:DX を強力に推進しようとしています。DX とは、企業などがデジタル技術やビッグデータを活用して、製品やサービス、ビジネスモデルを変革し、競争上の優位性を確立することを意味します。

このように、今回のコロナ禍は多くの深刻な被害を生むと同時に、我々にとって新たな学びと経験がありました。これから社会人となる皆さんには、急激な社会の変革に呑み込まれることなく、広い視野で多角的に状況を分析し、高度な専門的見地から

課題を解決に導く力を磨き上げ、真に人間社会に貢献できるよう、ご成長頂きたいと願っています。是非、本学で身につけた知識や経験を最大限に活かし、日本社会を正しく先導する社会人としてご活躍ください。

この度の学位記授与、そして新たな門出を祝い、卒業生・修了生皆さんの益々のご活躍を祈念いたしまして学長告辞といたします。

令和3年3月19日
学長 鈴木 聡一郎

= 入試 =

令和3年度大学院入学試験（第2回）を実施

（入試課）

令和3年度大学院工学研究科博士前期課程入学試験（第2回）を2月10日（水）に実施しました。各専攻の合格者数等は下表のとおりです。

また、令和3年度大学院工学研究科博士後期課程入学試験（第2回）を2月9日（火）に実施しました。各専攻の合格者数等は下表のとおりです。

博士前期課程

専攻名	募集区分		ユニバーサル コース入試		外国人留学生 特別入試		高等専門学校 専攻科生特別入試		学部3年次学生 対象入試	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
機械工学専攻	2	1	0	0	3	2	0	0	0	0
社会環境工学専攻	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
電気電子工学専攻	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0
情報システム工学専攻	3	3	0	0	1	1	0	0	0	0
バイオ環境化学専攻	2	2	0	0	1	1	0	0	0	0
マテリアル工学専攻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	9	8	0	0	6	5	0	0	0	0

博士後期課程

専攻名	募集区分		社会人入試		外国人留学生入試	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
生産基盤工学専攻	1	1	0	0	1	1
寒冷地・環境・ エネルギー工学専攻	0	0	1	1	0	0
医療工学専攻	1	1	1	1	0	0
合 計	2	2	2	2	1	1

令和3年度一般選抜を実施

(入試課)

令和3年度工学部一般選抜について、1月25日(月)から2月5日(金)までの願書受付期間内に前期日程383人、後期日程1,145人の出願がありました。

前期日程は3月6日(土)に合格者を発表し、後期日程は3月12日(金)に個別学力検査を北見会場、東京会場、大阪会場で行い、3月20日(土)に合格者を発表しました。両学科の合格者数等は下表のとおりです。

前期日程

学 科	募集人員	志願者	合格者
地球環境工学科	72	107	101
地域未来デザイン工学科	81	276	165
合 計	153	383	266

後期日程

学 科	募集人員	志願者	合格者
地球環境工学科	62	459	127
地域未来デザイン工学科	71	686	78
合 計	133	1,145	205

※後期日程の合格者数には、追試験合格者数(両学科とも1人)は含めていません。

= 研究助成 =

令和 2 年度外部資金の受入状況

(研究協力課)

	令和 3 年 3 月 31 日 までの合計		前号までの合計		令和 2 年度累計	
	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)
共同研究	7	3,324	118	102,657	125	105,981
受託研究	0	0	17	142,399	17	142,399
奨学寄附金	21	15,623	66	50,516	87	66,139

= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現 職 名	氏 名	新 職 名 (発令事項)
3.3.31	工学部機械電気系教授	山田 貴延	定年退職
〃	工学部応用化学系教授	星 雅之	定年退職
〃	工学部応用化学系教授	吉田 孝	定年退職
〃	工学部地域国際系教授	有田 敏彦	定年退職
〃	工学部機械電気系准教授	渡辺 美知子	定年退職
〃	工学部地域国際系准教授	伊藤 敦	辞職
〃	工学部情報通信系助教	岸本 恭隆	辞職
〃	工学部情報通信系助教	山内 翔	任期満了退職
〃	総務課長 (総務担当)	井上 義彦	辞職 (北海道大学へ転出)
〃	総務課長 (人事担当)	坂田 寿	定年退職
〃	施設課長	成田 芳道	辞職 (北海道大学へ転出)
〃	情報図書課長	梶原 茂寿	辞職 (琉球大学へ転出)
〃	学務課学生支援室長	渡部 孝弘	定年退職
〃	技術部副部長	中西 喜美雄	定年退職
〃	技術部技術専門員	布川 裕	定年退職
3.4.1	工学部社会環境系教授	山下 聡	工学専攻主任、社会環境工学プログラム専修プログラム長 (任期:令和4年3月31日まで)
〃	工学部機械電気系教授	星野 洋平	機械電気工学プログラム専修プログラム長 (任期:令和4年3月31日まで)
〃	工学部情報通信系教授	鈴木 正清	情報通信工学プログラム専修プログラム長 (任期:令和4年3月31日まで)
〃	工学部応用化学系教授	松田 剛	応用化学プログラム専修プログラム長 (任期:令和4年3月31日まで)
〃	工学部基礎教育系教授	山田 浩嗣	共通基盤長 (任期:令和4年3月31日まで)

発令年月日	現職名	氏名	新職名（発令事項）
3.4.1	工学部地域国際系教授	藤井 享	社会連携推進センター長及び知的財産センター長（任期：令和4年3月31日まで）
〃	工学部機械電気系教授	ウラ シャリフ	ものづくりセンター長（任期：令和4年3月31日まで）
〃	副学長・工学部情報通信系教授	平山 浩一	キャリアアップ支援センター長（任期：令和4年3月31日まで）
〃	工学部社会環境系准教授	井上 真澄	工学部社会環境系教授
〃	工学部社会環境系准教授	駒井 克昭	工学部社会環境系教授
〃	工学部応用化学系准教授	菅野 亨	工学部応用化学系教授
〃	工学部応用化学系准教授	佐藤 利次	工学部応用化学系教授
〃	工学部応用化学系准教授	金 敬鎬	工学部応用化学系教授
〃	工学部基礎教育系准教授	戸澤 隆広	工学部基礎教育系教授
〃	工学部地域国際系准教授	内島 典子	工学部地域国際系教授
〃	工学部応用化学系准教授	岡崎 文保	工学部機械電気系准教授
〃	工学部機械電気系助教	河野 義樹	工学部機械電気系准教授
〃	工学部機械電気系助教	ラワンカル アビジート	工学部機械電気系准教授
〃	工学部応用化学系助教	邱 泰瑛	工学部応用化学系准教授
〃	工学部応用化学系助教	陽川 憲	工学部応用化学系准教授
〃	（新規採用）	（あおき えみ） 青木 愛美	工学部基礎教育系准教授
〃	工学部基礎教育系講師	ボゼック, クリスト ファー ジョン	工学部基礎教育系准教授
〃	研究協力課専門職員	三枝 昌弘	工学部地域国際系准教授
〃	（新規採用）	フォン チャオフイ	工学部応用化学系助教
〃	学務課長	小林 和宏	総務課長
〃	施設課副課長（係長兼務）	尾崎 直	施設課長
〃	釧路工業高等専門学校総務課課長補佐	（しばた としなり） 柴田 俊成	研究協力課長
〃	研究協力課長	清野 千春	学務課長（学生支援室長兼務）

発令年月日	現職名	氏名	新職名（発令事項）
3.4.1	北海道教育大学学術情報室長	(たなべ ちゆき) 田邊 千雪	情報図書課長（係長兼務）
〃	総務課副課長	斉藤 靖子	総務課高度専門職（戦略広報担当） （副課長及び係長兼務）
〃	総務課係長	菊池 一修	総務課副課長
〃	施設課係長	大野 庄也	施設課副課長
〃	学務課副課長（係長兼務）	内山 彰	学務課副課長
〃	入試課係長	上野 祐輔	総務課係長
〃	研究協力課係長	本庄 哲朗	施設課係長
〃	施設課専門職員	上妻 武広	施設課係長
〃	施設課主任	佐野 文則	施設課係長
〃	施設課係長	山本 至	研究協力課係長
〃	総務課係長	上野 智子	研究協力課係長
〃	学務課主任	山本 真理恵	学務課係長
〃	研究協力課係長	後藤 将大	入試課係長
〃	研究協力課主任	尾谷 綾子	総務課主任
〃	学務課事務職員	遠藤 珠江	総務課主任
〃	財務課事務職員	田中 大貴	財務課主任
〃	入試課事務職員	原田 壮志	入試課主任
〃	情報図書課事務職員	八田 この実	情報図書課主任
〃	入試課事務職員	長塚 康大	総務課事務職員
〃	（新規採用）	(たまい けんた) 玉井 健太	学務課事務職員
〃	技術部高度専門職（機器分析支援担当）	山根 美佐雄	技術部副部長

= 受賞 =

本学大学院生が第 30 回化学工学・粉体工学研究発表会において 学術奨励賞を受賞

(バイオ環境化学専攻)

1月22日(金)～23日(土)にオンラインで開催された第30回化学工学・粉体工学研究発表会において、本学大学院生の吉田果菜子さん(博士前期課程 バイオ環境化学専攻1年、指導教員：小西正朗教授)が学術奨励賞を受賞しました。

吉田さんの発表課題名は「微生物培養のスケールアップに伴う環境因子の制御が培地成分プロファイルによる培養予測に及ぼす影響」で、小西教授の指導のもと実施した研究課題です。微生物培養による物質生産は化石資源に依存しない製造技術として注目されており、工業規模での生産では天

然培地と呼ばれるエキス成分を多用します。しかし、天然培地は栄養豊富で安価な反面、組成が不安定であるため、生産効率の不安定化を招いてしまいます。小西教授らのグループは天然培地の組成プロファイルに着目し、機械学習により培地組成から培養を予測するための数理モデルの構築やモデルから予測される重要な成分を見出す技術開発を行っています。吉田さんは培養予測に用いる教師データを取得する際の環境因子が培養予測に与える影響を評価し、その結果をまとめた発表が高く評価されました。



受賞した吉田さん

応用化学系の大野智也教授が令和2年度 北海道科学技術奨励賞を受賞

(応用化学系)

このたび、「令和2年度 北海道科学技術賞及び北海道科学技術奨励賞」において、応用化学系の大野智也教授が北海道科学技術奨励賞を受賞しました。

この賞は、北海道を主な拠点として、本道の発展に寄与する科学技術上の優れた発明、研究を行い、今後の活躍が期待される45歳未満の若手研究者に、知事表彰として贈られるものです。

大野教授の功績は「循環型農業を目指したホタテ貝殻粉末の造粒技術の開発」。

北海道の水産加工業ではホタテ貝殻が大

量に廃棄されており、この有効活用の一環として貝殻を粉末状にした土壌改良剤があります。しかし粉末状の土壌改良剤は散布方法に課題があるため、農業機械で散布可能な粒状化が求められてきました。大野教授は、取り扱いの難しい粉末を用いた造粒技術を粉体工学の観点から研究し、転動造粒法による粒状酸土矯正剤の開発に成功。この技術開発により、循環型一次産業の基盤を地元自治体に提供するなど、道内での経済効果に大きく波及させたことが評価されました。



受賞した大野教授

= 諸報 =

ブックリユースを開催

(情報図書課)

1月25日(月)～28日(木)の4日間、図書館の多目的室でブックリユースを開催しました。

この企画は、図書館で不用になった本や本学教職員が読み終えた本をリユース(再利用)するもので、地域の皆様や本学学生・教職員の学習、研究に役立ててもらえるものです。例年は大学祭に合わせて開催していますが、今年度は新型コロナウイルス感染

症拡大防止のため、学内者のみを対象として実施しました。

規模を縮小しての開催となりましたが、たくさんの方にお立ち寄りいただき、準備した2,673冊の図書・雑誌のうち、108人の方に513冊の本を譲渡しました。

来年以降も、多くの皆様に喜んでいただける企画を開催できればと思っています。



選書の様子



会場案内

メンタルヘルス研修を実施

(総務課)

2月10日(水)、メンタルヘルス研修を実施し、教職員約90人が参加しました。

本研修は、メンタルヘルスに関する理解を深めるとともに、自分のストレス耐性を高め、日ごろの注意点・対策方法を習得するなど、健全な労働環境を確保することを目的としています。

講師には株式会社インソース・有田恵氏を迎え、最近の日本のメンタルヘルスの現

状やストレスの要因とその反応、ストレスへの対処法等について研修していただきました。

今回はZOOMによるオンライン開催となりましたが、参加した教職員はZOOMのチャット機能等を積極的に活用しながら、メンタルヘルスに対する認識と対処法への理解を深めていました。

端野しらかば大学集合学習に協力

(研究協力課)

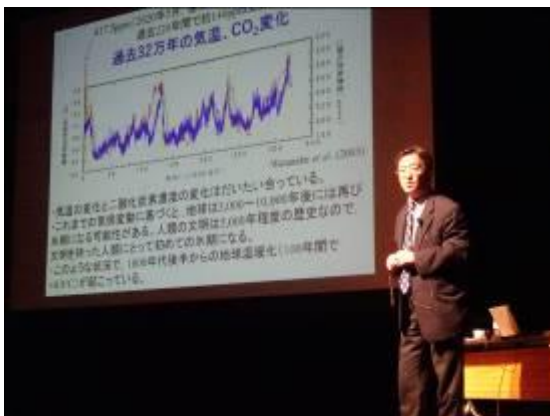
2月12日(金)、端野町公民館で「端野しらかば大学集合学習」が開催され、社会環境系の亀田貴雄教授が講師として協力しました。

端野しらかば大学とは、60歳以上の市民を対象とした生涯教育の取組で、概ね月1回、学習計画に沿って活動を行っています。今回の集合学習は新型コロナウイルス感染症対策を講じ、参加人数を制限して開催されました。

講演は亀田教授の自己紹介及び南極観測

隊がどういった人員で構成されるか、という話題を皮切りに、越冬隊として南極ドームふじ基地で行った氷床の掘削によって得られた気候変動に関する研究成果や、南極における休日の過ごし方など幅広い内容となり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

コロナ禍の影響により、地域社会に向けて本学の教育・研究に関する情報発信が困難な状況ですが、対策を十分に実施した上で今後もこうした活動を継続したいと考えています。



講演を行う亀田教授



間隔を空けて着席する参加者

アルゴグラフィックス北見カーリングホールで 本学学生がギターソロコンサートを開催

(機械電気系)

2月17日(水)、アルゴグラフィックス北見カーリングホールのエントランスホールにて「飯野健広ギターソロコンサート～卒業～」が行われました。

飯野さん(地域未来デザイン工学科4年)は、2018年GLC学生ギターコンクール大学生の部第1位、同年札幌市民芸術祭ギター音楽祭大賞等の受賞歴があり、北見市民芸術祭へもゲスト出演しています。

今回のコンサートは「カーリング以外でのホールの活用方法を探るとともに、市民に親しみをもってもらおう」と北見市教育委員会が主催したもので、新型コロナウイルス感染症対策が講じられる中、約30人の市民が参加しました。

1時間ほどのコンサートでは、以下7曲が演奏されました。

- ・ 舞踏礼讃/レオ・ブローウェル
- ・ リブラ・ソナチネ/ローラン・ディアンス
- ・ 魔笛の主題による変奏曲/フェルナンド・ソル

- ・ 禁じられた遊び/作者不明
- ・ ラグリマ/フランシスコ・タレガ
- ・ 潮騒のメモリー/作曲：大友良英・編曲：小関佳宏
- ・ タンゴ・アン・スカイ/ローラン・ディアンス

ソロコンサートの様子は、テレビのローカルニュースや新聞などで報道され、参加した市民の方々は「本当に感動した」「優しさが演奏に出ている」とコメントしていました。

飯野さんは3月に卒業を予定しており、卒業後は北見を離れますが、進学して「音楽情報処理」や「スロートマイクロフォン」によるささやき声でのコミュニケーション」等の研究を行う予定です。「北見で多くの人と関わることができ、感謝の気持ちを込めた。」と今回のコンサートについて語る飯野さんは、今後も人生の節目ごとに北見でコンサートをしたいと話しています。



演奏中の様子



休憩中の飯野さん

就活支援セミナー「病院の医療情報システムエンジニアの仕事紹介」を開催

(機械電気系)

2月18日(木)、就活支援セミナー「病院の医療情報システムエンジニアの仕事紹介」をオンラインで開催しました。北見市内の基幹病院で働く方々にご協力いただき、2018年11月に続く2回目の開催となる本セミナーは、機械電気系の早川吉彦准教授企画のもと、進行はジョブカフェ北見の木村恵美氏に担当していただきました。

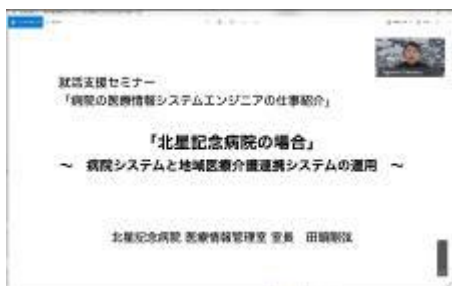
本セミナーはシステムエンジニア等の職種で働く3人の方から仕事を紹介していただく構成となっており、最初に北星記念病院の田頭剛弦氏から、本邦に多いベッド数100前後の病院でのSEの役割を話していただきました。看護師ら同僚から期待される中、病院で発生するデータを生かす取り組みについてや、高齢化・生産年齢人口減少に対して医療の人的物的資源をどう活用するかを実践する取り組みとして地域医療福祉情報連携システム「北まる net」について話していただきました。

続いて、北見赤十字病院の河野洋樹氏が

ら、道立北見病院との一体化運用で、5人の情報システム担当者が医師看護師らのニーズに応じている実態について話していただきました。500床を超え1,100余人が働く大病院では、80種類以上のシステムを稼働、1,200台の端末を管理しているということでした。

最後に、古屋泌尿器科医院の佐藤頭広氏からは、医療分野の工学・情報系人材には、「こんなにテラシーがあればいいな」という話や、多様な職種の方が働いている病院では意思疎通をよくして、期待されることを察知し実践することが大切だという話をしていただきました。

参加した学生からは、「院内SEという仕事の可能性を知ることができて良かったです。医療分野における情報の扱い方や、必要性、現状などを現場で働いている方のお話を聞くことができてとても貴重な体験でした。」などの声がありました。



田頭氏のプレゼンテーションから



河野氏のプレゼンテーションから



佐藤氏のプレゼンテーションから

令和2年度就職イベントを開催

(学務課)

2月18日(木)、本学第二体育館で、オホーツク商工会議所協議会、北見市大卒者情報センター、KIT げんき会そして本学との共催により「オホーツク合同企業セミナー」を開催しました。

本セミナーは新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じたうえで実施し、北見市を含む近隣6市町の企業29社(団体)、本学学生及び道内外の大学・専門学校等から約30人が参加しました。学生は企業担当者の話に熱心に耳を傾けたり、企業との出逢いを求めて積極的に担当者と交流していました。

また、2月19日(金)から21日(日)までの3日間、オンラインによる「合同企業研究会」を開催しました。本研究会では、

午前・午後のそれぞれ冒頭に全体説明会を実施し、その後に各企業が自社をPRする1分間のプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーション後には学生が1社あたり40分の説明を受け、1日最大6社を受講できる形式で実施しました。3日間の参加企業数は計102社で、各企業の説明を受けた学生は延べ約550人となりました。

これらのイベントに参加した学生からは、「業種について幅広く知ることが出来た」との声があり、3月の就職活動解禁に向け満足感のあるイベントになったようです。また、大学としても学生の就職活動を支援するため、次年度に向けてさらに実施方法などを検討していく予定です。



オホーツク合同企業セミナーの様子

個人情報保護研修を実施

(総務課)

2月22日(月)、株式会社インソースの古木孝典氏を講師に迎え、個人情報保護研修を実施しました。

本研修は、本学が保有する個人情報及び特定個人情報の取扱いについて理解を深め、個人情報保護に関する教職員の意識の高揚を図ることを目的として毎年開催しています。

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、ZOOMによるオンライン開催となりました。

参加した教職員約100人は、古木氏の講義をしっかりと聞き、講師からの設問に答えるなどのやり取りを交えながら、個人情報保護に関する知識を深めました。



研修の様子

「地域を彩る食物語」に出展

(社会連携推進センター)

2月24日(水)～26日(金)の3日間、コミュニティプラザパラゴを会場に「地域を彩る食物語」が開催されました。北見市産学官連携推進協議会が主催している本イベントは、今年で11年目を迎えました。

今年度は当協議会の参画機関による地域資源を活かした開発商品の販売会に加え、YouTubeによるオンラインセミナーが2月22日(月)～3月5日(金)まで開催されました。オンラインセミナーでは、本学社会連携推進センター長の有田敏彦教授から、過去10年の「地域を彩る食物語」の開催内容を振り返り、本事業に参加した機関の紹

介や講演会、人材育成事業の受講生による成果報告ならびに開発した商品の販売会の模様をダイジェストで紹介しました。また、公益財団法人オホーツク財団と公益財団法人ノーステック財団から、最近の取組事例や新商品開発支援について紹介がありました。

本イベントは、参加大学・機関とともに「食と健康」、「人材育成」をキーワードとする地域おこしの意識を広く共有し、それぞれの活動を今後も発展させていく場として、今後も継続が予定されています。



開発商品販売会の様子



有田教授によるオンラインセミナー
「地域を彩る食物語を振り返る」から

事務職員のための講演会を実施

(総務課)

3月1日(月)、令和2年度事務職員のための講演会をオンラインで開催しました。

この講演会は、事務職員の資質向上を目的とした研修の一環として従来から開催しており、外部講師による国立大学事務職員として求められる知識・感覚・能力等についての講演等を通じて、事務職員としての自覚を促し、更に業務及び業務見直しへの一助とすることを目的に、全ての事務職員を対象として実施しています。

今年度は講師として、一般社団法人国立大学協会事務局次長・審議役の玉上晃氏を

招き、「国立大学の現状と課題について」と題した講演を行っていただきました。

玉上氏からは、新型コロナウイルスへの対応や高等教育政策の動向、令和4年4月に予定されている北海道内三大学の経営統合を踏まえた上でこれからの国立大学職員のあるべき姿について、分かりやすくご講演いただきました。

今回の講演会は、参加した職員一人一人が本学の強みや特色を常に意識しつつ業務に取り組むことの重要性を改めて認識する貴重な機会となりました。



講演する玉上氏

北見医工連賞授賞式

(社会連携推進センター)

このたび、機械電気系の河野義樹助教が北見医工連賞を受賞しました。受賞研究は「複雑形状の数値化手法を用いた椎体の形状定量化と力学特性評価」です。

北見医工連賞は、北見医師会・北見医工連携研究会が主催するオホーツク医学大会の一環として、若手研究者の医療工学研究の発展を目的に行われているものです。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から授賞式は開催されず、受賞者講演の様子は3月14日(日)～28日(日)の2週間、オンライン公開されました。

北見医工連賞並びにオホーツク医学大会は、本学からの多くの研究発表の場として、また地域への情報発信の場として活用が期待されています。



受賞した河野助教

令和2年度学生表彰

(学務課)

令和2年度学生表彰に、成績優秀学生は優秀な成績を収めた学生13人、学長賞はスポーツの世界大会において優秀な成績を収めた1人、ミント賞は学会等から表彰を受けた学生や障がい学生支援に貢献した学生、課外活動で好成績を収めた学生16人と2

団体が受賞しました。

例年実施している表彰式については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施を取りやめましたが、受賞者には表彰状並びに記念品が個別に贈呈されました。

成績優秀学生

氏名等	所属コース・専攻
加藤 真歩	エネルギー総合工学コース
鎌田 航輔	環境防災工学コース
加藤 大地	先端材料物質工学コース
伊澤 陸斗	機械知能・生体工学コース
杉本 有矢	情報デザイン・コミュニケーション工学コース
斉藤 茉由美	社会インフラ工学コース
橋本 由弥	バイオ食品工学コース
楠本 和仙	機械工学専攻
高橋 優太	社会環境工学専攻
中村 綾花	電気電子工学専攻
馬屋原 拓也	情報システム工学専攻
立花 成我	バイオ環境化学専攻
山崎 華子	マテリアル工学専攻

学長賞

氏名等	所属学科
相田 晃輔	地域未来デザイン工学科

ミント賞

氏名等	所属学科・専攻
上見 拓也	地域未来デザイン工学科
飯野 健広	地域未来デザイン工学科
伊澤 陸斗	地域未来デザイン工学科
平林 良	地域未来デザイン工学科
福井 彩	地域未来デザイン工学科
松本 日和	社会環境工学専攻
渡辺 由梨加	社会環境工学専攻
天野 溪太	電気電子工学専攻
山田 篤弥	マテリアル工学専攻
佐々木 亮輔	機械工学専攻
平井 泰輔	社会環境工学専攻
岡本 大輝	電気電子工学専攻
小笠原 明信	寒冷地・環境・エネルギー工学専攻
佐藤 孝政	寒冷地・環境・エネルギー工学専攻
NIEUWAZNY JAGNA STANISLAWA	生産基盤工学専攻
劉 爽	寒冷地・環境・エネルギー工学専攻
チーム村山	—
ピア・サポーター	—

= 日誌 =

2 月

- 1日 地域連携・国際交流委員会（書面審議）
- 3日 地域連携・国際交流委員会（書面審議）
- 5日 入学者選抜委員会
- 9日 大学院博士後期課程入学試験（第2回募集）
- 10日 メンタルヘルス研修、大学院博士前期課程入学試験（第2回募集）
- 15日 入学者選抜委員会
- 16日 入学者選抜委員会
- 17日 教育研究評議会、私費外国人留学生入学試験合格発表、大学院入学試験（第2回）合格発表
- 18日 発明審査委員会、オホーツク合同企業セミナー
- 19日 経営協議会（書面審議）、教務委員会、合同企業研究会（～21日）
- 22日 個人情報保護研修、学生委員会
- 24日 役員会、FD講演会、入学試験実施委員会
- 25日 進路選択支援室会議

3 月

- 1日 事務職員のための講演会、アドミッションセンター運営会議、入学者選抜委員会、編入学・大学院入学手続き（～8日）
- 2日 FD講演会
- 3日 入学者選抜委員会
- 5日 教務委員会、入学者選抜委員会
- 6日 一般選抜「前期日程」合格発表
- 7日 一般選抜「前期日程」・私費外国人留学生入学手続き（～15日）
- 8日 教授会（書面審議）、研究科委員会（書面審議）、地域連携・国際交流委員会（書面審議）
- 9日 FD講演会
- 12日 一般選抜「後期日程」入学試験
- 16日 教育研究評議会、役員会
- 17日 入学者選抜委員会
- 18日 発明審査委員会
- 19日 学位記授与式、入学者選抜委員会
- 20日 一般選抜「後期日程」合格発表
- 21日 一般選抜「後期日程」入学手続き（～26日）
- 22日 経営協議会（書面審議）、学長選考会議（書面審議）
- 23日 役員会、入学者選抜委員会
- 25日 教務委員会、入学者選抜委員会
- 26日 一般選抜「後期日程」追試験合格発表
- 27日 一般選抜「後期日程」追試験入学手続き（～30日）
- 30日 経営改革推進会議